

357 ^{99m}Tc レニウムコロイドによる骨髄シンチグラフィ

三木昌宏, 内野治人 (京大, 一内)
鳥塚莞爾 (京大, 核)

造血器疾患に於ては骨髄の機能や分布を把握する事は重要であり、これらは疾病の種類により、また同一疾患においても病態および経過により異るとされている。この変化を検索するには骨髄シンチグラフィが有用であるが、演者らは最近発売されたリンパ節シンチグラフィ用、^{99m}Tc レニウムコロイドキット (ミドリ十字社製) を用いて、良好なイメージ像を得たので報告する。対象は京大一内より骨髄シンチグラフィの依頼のあった血液疾患症例であり、レニウムコロイドの作製はキットの指示に従った。コロイドは一人当り 10~15mCi を静脈投与し、2~3 時間後に日立 r-VIEW H を用い排尿後に撮像した。正常例では、頭骨、上腕骨上部、胸骨、脊椎骨、骨盤骨、大腿骨上部に活性骨髄が認められ、胸骨、脊椎骨、骨盤骨の軀幹骨に高い放射活性が見られた。再生不良性貧血では貧血の程度に応じて活性骨髄の質的量的低下が見られ、治療により回復が観察された。白血病症例では多くの場合に活性骨髄の分布が末梢へと伸展していた。レニウムコロイドは骨髄シンチグラフィにも有用であると考えられる。

358 ¹¹¹In-chloride による骨髄シンチグラフィの臨床的検討

島袋国定, 坂田博道, 城野和雄, 中條政敬, 吉村広, 篠原慎治 (鹿大, 放)

¹¹¹In-chloride による骨髄シンチグラフィは種々の血液疾患の全身骨髄造血能を知る上で、有用な検査法である。今回、われわれは血液疾患 35 例 (再生不良性貧血 21 例, 慢性骨髄性白血病 5 例, 真性多血症 3 例, 急性白血病 3 例, 溶血性貧血 2 例, 骨髄線維症 1 例) を対象として、骨髄シンチグラフィを行ない、5 例の正常例との比較検討を行なった。

再生不良性貧血では中心部骨髄への RI 集積の低下 (15/21) あるいは消失 (2/21)、腎影の著明な描出 (14/21) が多くみられ、また Island like distribution (7/21) も認められた。一方、慢性骨髄性白血病、真性多血症、骨髄線維症などいわゆる慢性骨髄増殖症候群では、中心部骨髄の RI 集積の軽度低下 (6/8)、末梢骨髄の描出 (6/8)、肝・脾の RI 集積の相対的増強 (5/8) などがみられた。急性白血病では中心部骨髄の RI 集積の著明な低下と腎影の描出、溶血性貧血では中心部骨髄の RI 集積の低下と末梢骨髄の描出がそれぞれ認められた。

¹¹¹In-chloride による骨髄シンチグラフィは各疾患の造血能を知るのに有用であると考えられた。

359 塩化インジウムによる骨髄シンチグラフィが肺に於ける髓外造血巣の診断に有用であった肝硬変症の 1 剖検例

西森 登, 前田 健, 田中瑞穂 (留萌市立病院, 内)
浦波賢二, 蛭名 豊, 浜林幸信 (留萌市立病院, 放)
望月洋一 (札幌医大, 癌研病理)

塩化インジウムによる骨髄シンチグラフィの各種血液疾患に於ける有用性について検討してきたが、今回、我々は塩化インジウムによる骨髄シンチグラフィが肺に於ける髓外造血巣の診断に有用であった肝硬変症の 1 例を経験したので報告する。症例は 51 才男性で、腹水、肝脾腫大が主訴であった。血液生化学的検査、肝シンチグラフィ及び腹水の性状から肝硬変症と診断されたが、肝疾患としては程度の強い貧血を認めたために精査の目的で、塩化インジウムによる骨髄シンチグラフィを施行した。シンチグラフィ所見は肝臓、脾臓及び胸骨髄が強く描出され、右肺野及び右大腿骨上部にも強い集積像を認めたが、X線検査では、肺、肋骨、大腿骨には異常を認めなかった。約 1 年後食道静脈瘤破裂による急性腎不全のため死亡しその剖検所見から、肝脾には髓外造血巣を認めなかったが、肺に髓外造血巣を認めた。